

豊岡市新文化会館 整備基本構想・基本計画策定委員会 (第4回)

資 料

1. 前回委員会のまとめ
2. 新文化会館整備基本構想(案)について

1. 前回委員会について

市民アンケート結果についての質疑、主な意見

■ 地域別の文化活動状況について

- 竹野地域や但東地域で文化芸術活動を行っている割合が高いのは疑問
- 竹野地域ではコミュニティセンターが活動場所となっている
- 文化芸術活動のなかには、習字や祭りなどが含まれている可能性がある
- 但東は豊岡地域まで遠いため、地元で活動する傾向が強い可能性がある（練習は地元で行い、発表はひぼこホールなど）

■ 年齢別の文化活動状況について

- 20代、30代の数字が極端に低く、リタイア後に大きく上昇する
- 若い世代が文化活動をしていないという意味ではなく、若い世代に適した活動がないために、UIJターン現象が起きていないということ
- 豊岡市の地方創生の観点から、生存をかけた戦略として、若い世代に適した文化活動を行い、UIJターンを呼び込まなくてはならない

市民アンケート結果についての質疑、主な意見など

■ アンケート標本について

- 若い世代の回答が実態を表しているか疑問である。統計的信頼度が薄い
- 将来の主利用者となる若い世代の意見は、母数が少なくても反映すべき
- 市民の年齢構成による配分ではなく、偏差をかけて若い世代の調査母数を増やすと良かった

■ 若い世代の文化芸術活動について

- 文化協会の会員の年齢構成が非常に高い
- 若い世代が忙しすぎる。学校の部活動と校外の文化芸術活動の両方は子どもたちにとって負担が大きい
- 学校の部活動は全入ではない。部活を減らす流れがある一方で、保護者からは部活をして欲しいという要求がある。一面的には考えられない

■ 望ましいホール規模について

- 他の設問と比べて無回答率が異常に高い点が気になる

■ 予算と施設規模について

- 近年建設された施設の事例から算出される建設費は税込み82万円/m²弱程度で、70万円/m²では厳しい
- ホールの席数と建物延床面積は必ずしも対応しない
- 施設の方法・工法を適切に用いることで、豊かな設備と低い単価を実現した例もある（太田市民会館/香山アトリエ設計など）

■ ホール施設について

- セパレートシステムは、壁や天井が動くのではなく、客席照明によって視線を切る方法を検討している
- 「小ホール」や「リハーサル室」については、名称によって先入観がでてくるので、「ホール」などの役割を超えた新たな名称を設定すれば、新たな議論になる

■ホールの規模について

- 人口減少のなかで、大きな公演を呼ぶことは予算的に厳しい。大きなホールを作っても興行を呼べないのでは意味が無い
- アンケート結果によれば、幅広く鑑賞されているジャンルはオーケストラで、このような公演は1000人以上集客しているはず
- オーケストラといっても規模やコンセプトは様々である
- 近年は大都市でもオーケストラで集客するのは困難。地方都市で、1000席のホールをオーケストラで埋めるという方針は非現実的である
- 横浜でもオーケストラで大きなホールは埋まらず、500席のホールを使い、採算を取るために一日複数公演することがある
- 自主運営におけるコストを考えて厳しくキャパを設定すべきである。運営を工夫すれば改善は可能であり、そこも検討して欲しい
- 吹奏楽は800席では採算がとれず従来の団体が公演を続けることは難しい。他市は800席が標準で「但馬の豊岡」を考慮すると1000席が良い
- 焦点になるのは大きなキャパが必要となる吹奏楽である

■その他

- 専門職大学が開学するなかで、アートマネジメントのトッププロが30人程度豊岡に住むことになり、前提条件が変わるとの認識を持って欲しい
- 自動運転や顔認証といった新技術によって社会が変わっていく可能性も踏まえて、将来これらに対応できるように考えておかななくてはならない
- 豊岡は専門職大学の開学に伴い、全国から非常に重要な人材が集まると考えており、本ホールの建設には大きな責任がある
- 駐車場についての議論が気になる。都心ではカーシェアリングが主流になってきており、場所が決まってからの本格的な議論が楽しみである

2. 新文化会館整備基本構想(案)について

新文化会館整備基本構想(案)の構成

基本構想策定の背景

- 1. はじめに
- 2. 基本構想策定の背景
- 3. 基本構想策定の流れ

第1章 豊岡市新文化会館を 取り巻く状況

- 1. 文化振興の背景と動向
- 2. 豊岡市立文化会館の現状
- 3. 豊岡市の文化環境
- 4. 市民意見・関係団体意見の集約
- 5. 文化会館の再整備にあたっての留意事項
- 6. 市内文化施設の再整理と新文化会館の方向性

第2章 豊岡市新文化会館の 基本的な考え方

- 1. 豊岡市新文化会館の基本理念

第3章 豊岡市新文化会館に 必要な機能と考え方

- 1. 豊岡市新文化会館の施設の概要
- 2. 豊岡市新文化会館の建設地

第4章 豊岡市新文化会館の 管理運営の考え方

- 1. 管理運営に関する考え方

基本構想策定の背景

基本構想策定の背景

1. はじめに

- 旧1市5町が合併した豊岡市は、各地域それぞれの優れた自然や歴史文化、産業が合わさり、多様な魅力を備えている
- 文化芸術活動については、各地域ごとに展開されてきた経緯があり、市全体でみた場合の効率性や公平性、豊岡市全体の魅力づくりが求められている
- 国による文化芸術振興のためのさまざまな取り組みが行われるなかで、豊岡市においても、文化芸術による地方創生「小さな世界都市」の実現に向けたまちづくりに精力的に取り組んでいる

2. 基本構想策定の背景

- 豊岡市の文化創造の拠点である市民会館とひぼこホールは、開館以来、但馬地域における文化活動拠点として、多くの人々に利用されてきた
- それぞれ開館より47年、24年が経過しており、施設本体、設備ともに老朽化が進行し、安全性の問題が浮上、ひぼこホールは、平成30年7月に閉館に至った
- 以上のことより、両ホールの機能を統合する形で、新文化会館を整備する運びとなった

基本構想策定の背景

3. 基本構想策定の流れ

- 策定にあたって、市民アンケート、関連団体ヒアリング、市民ワークショップ等を実施し、市民意見の収集を行った
- 新文化施設の整備を強く望む声をはじめ、施設の運営や事業、機能や性格、立地など多岐にわたる意見が出た
- 幅広い市民意見・要望と共に、市民会館とひぼこホールの状況、市内外の公共施設の状況、全国の先進事例や最近の文化芸術に関わる動向などを踏まえ、
「地域や世代を超えた交流を生み出し、豊岡市（但馬）の核となる施設」
「市民の生活をより豊かにする機会や場を提供し、
豊岡市の魅力を次世代に繋ぎ、また、高め発信していく施設」
として、新文化会館整備に向けた基本構想を策定した

第1章 豊岡市新文化会館を取り巻く状況

1. 文化振興の背景と動向

1) 国・県の文化政策の動向

- 近年、国は、文化芸術による心豊かな国民生活、活力ある地域社会の実現に向けて、下表のような文化政策を推進している

平成13(2001)年	文化芸術振興基本法制定
平成24(2012)年	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律
平成25(2013)年	劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取り組みに関する指針
平成26(2014)年	文化芸術立国中期プラン
平成27(2015)年	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）
	文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想
平成29(2017)年	文化芸術振興基本法の一部を改正する法律（文化芸術基本法）
平成30(2018)年	障害者による文化芸術活動の推進に関する法律
平成30(2018)年	国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律

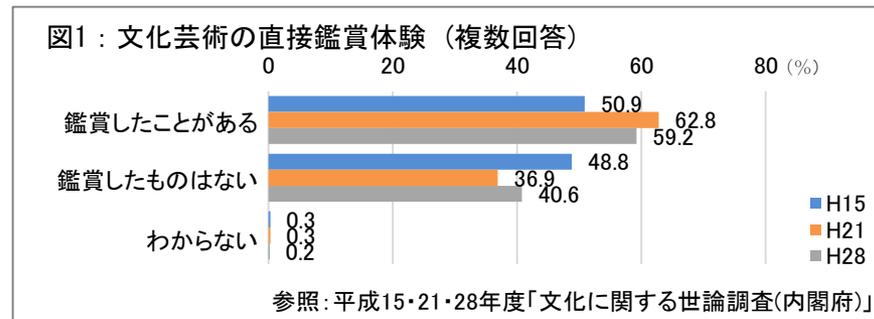
- 兵庫県においては、阪神・淡路大震災において、芸術文化が傷ついた人々の心を癒し、元気づけ、復興に向けた原動力となった経験を教訓として、「芸術文化振興ビジョン」を策定している

平成16(2004)年	芸術文化振興ビジョン（第1期ビジョン）
平成17(2005)年	兵庫県立芸術文化センター開館
平成27(2015)年	芸術文化振興ビジョン（改定）

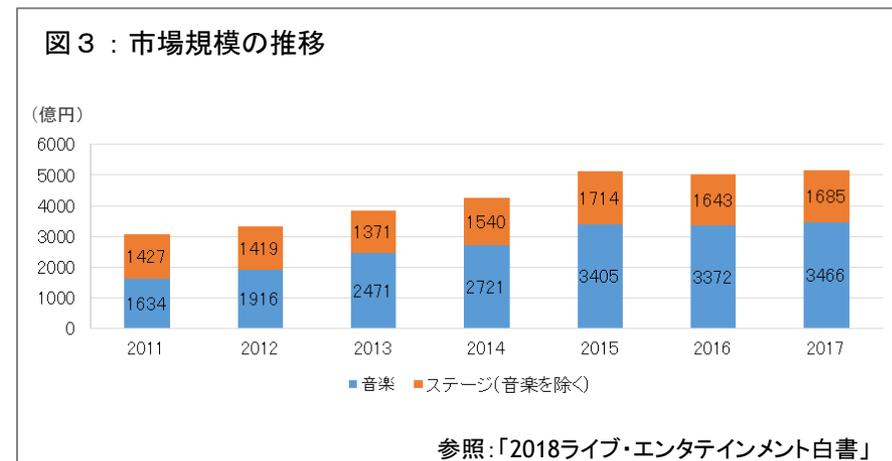
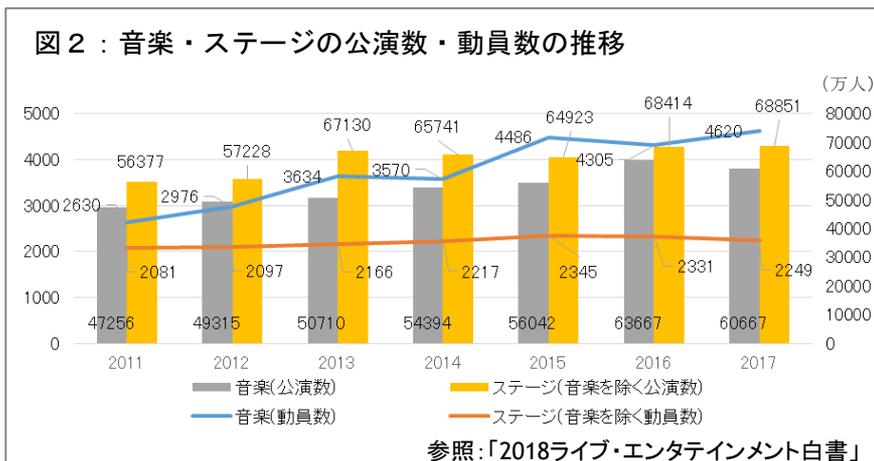
1. 文化振興の背景と動向

2) 文化芸術に関する社会的潮流

- 内閣府による「文化に関する世論調査（H28年）」によると、文化芸術を鑑賞した人の割合は約6割で、平成15年と比べて約1割増であることがわかる（図1）



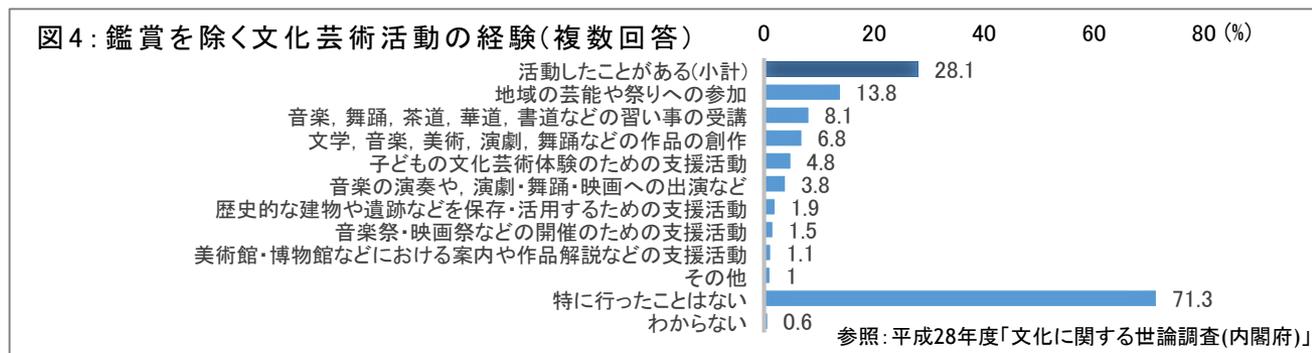
- 上記の傾向は、ライブエンタテインメント市場の動向からも明らかで、音楽関連の公演回数、動員数、市場規模のいずれも増加傾向である（図2、図3）



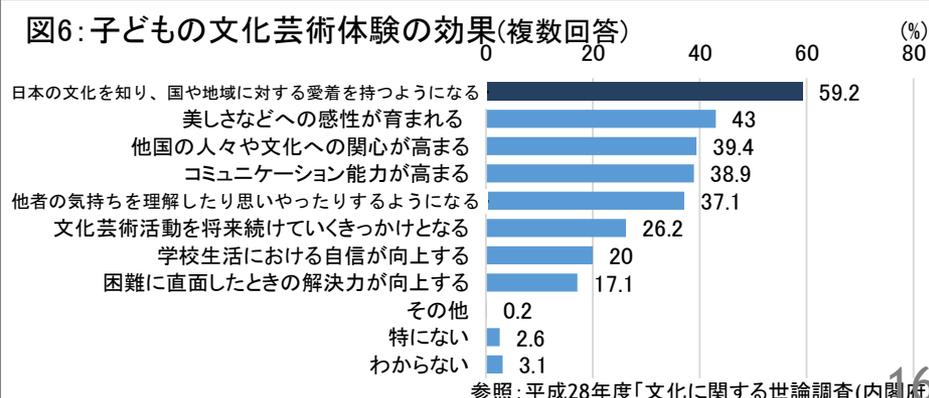
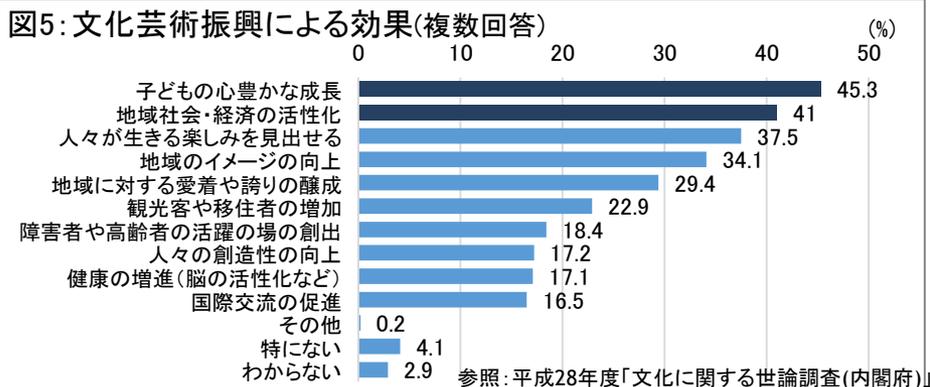
1. 文化振興の背景と動向

2) 文化芸術に関する社会的潮流

- 一方、鑑賞以外の文化活動を経験した人の割合は、鑑賞した人の割合の半分に届かず、芸術文化との関わり方は鑑賞主体であることが伺える（図4）



- 「文化に関する世論調査(H28年)」では、文化芸術振興の効果として、「子どもの心豊かな成長」や「地域社会・経済の活性化」が4割超、子どもの文化芸術体験の効果として、「国や地域に対する愛着を持つようになる」が約6割を占めるなど、社会における文化芸術の役割に対する高い評価を示唆していると考えられる（図5）



1. 文化振興の背景と動向

3) 豊岡市における関連計画等

- ・豊岡市新文化会館に関連する計画として、次のものがある

基本構想・市政経営方針

○豊岡市基本構想	・「命への共感に満ちたまち」の実現に向けたまちの将来像並びに課題と取組みの方向を示す
○豊岡市市政経営方針	・「小さな世界都市」を実現するための重点的な政策及び戦略を示す

歴史・文化・芸術に関する計画等

○豊岡市歴史文化基本構想	・歴史文化遺産を守り、活かすためのマスタープラン
○豊岡市文化芸術振興計画	・文化芸術による「小さな世界都市」の実現に向けた指針

まちづくりに関する計画

○豊岡市公共施設再編計画	・KIACは機能維持。市民会館は、管理運営を見直し、有効活用。その他の文化施設は、将来的な廃止を含めた施設のあり方を検討する
○豊岡市立文化会館等個別施設計画	・市民会館及びひぼこホールを廃止し、新たに文化会館を整備

健康・福祉に関する計画

○豊岡市障害者福祉計画	・施策のひとつとして、「スポーツ・文化活動の推進」を掲げている
-------------	---------------------------------

防災・安全に関する計画等

○豊岡地域防災計画	・市民会館は、風水害・地震の指定緊急避難場所
-----------	------------------------

2. 豊岡市立文化会館の現状

本編 P10～11

1) 施設の現状

① 市民会館

- JR豊岡駅の東方1.1kmの戸牧川沿いの中央公園内にあり、市役所や市民プラザを含む商業施設に程近い位置にある
- 施設は1,118人収容の大ホールと、複数の会議室や練習室等を有し、昭和46年の開館以来、多くの市民等に親しまれ、文化芸術活動の拠点として広く利用されてきた

【位置図】



【施設概要】

場 所	豊岡市立野町20-34	施設機能	文化ホール	1,118席
用途地域	都市計画公園内		楽屋(3室)	— ^m
建設年	昭和46(1971)年		リハーサル室	163 ^m
敷地面積	8,000 ^m		多目的室	104 ^m
建築面積	2,610 ^m		大会議室	213 ^m
延床面積	6,464 ^m (歩道橋含む)		中会議室	63 ^m
構造階数	RC造、地上4階地下1階		第1小会議室	31 ^m
ホール形式	プロセニウム形式		第2小会議室	60 ^m
舞 台	W17×D9.3×H7.2(m)		談話室(和室)	27畳
管理運営	直営		青少年婦人室	42 ^m
駐 車 場	120台	ギャラリー1	85 ^m	
		ギャラリー2	58 ^m	
		講座室	65 ^m	
		和室	10畳	

2. 豊岡市立文化会館の現状

1) 施設の現状

① 市民会館

- 開館以来、必要に応じて修繕を繰り返してきたが、建設から47年が経過
- 建物の経年劣化や舞台特殊設備の劣化・陳腐化が著しく利用者の安全性の確保が難しい
- 時代とともに建物・ホールに求められる基本性能が向上する中で、これらへの対応が難しく使いづらい
- 開館後に定められた現行法令に適合していない

【市民会館の課題】

建物の経年劣化
<ul style="list-style-type: none"> ・屋上からの漏水により、壁面の塗膜剥離やコンクリート劣化が発生 ・電気設備や空調・給排水設備の機器や配線配管等の耐用年数が迫る
舞台特殊設備の劣化・陳腐化
<ul style="list-style-type: none"> ・吊物機構の間隔が狭く(音響反射板を増設したため)使いにくい ・照明音響機器が古く、生産や部品供給ができないものがある ・吊物昇降が手引き、照明音響卓の型式が古い等、演出に制限がある
建物・ホールとしての基本性能不足、使いづらさ
<ul style="list-style-type: none"> ・ホールのステージが狭い、空調の音が大きい、扉の遮音性能が低い ・舞台照明の管理動線がタラップのみで危険 ・バリアフリー環境不備(ホール棟のEV不備、地下駐車場と建物入口の高低差等) ・駐車場進入路、舞台搬入口付近の通路が急勾配で使いづらい、など
現行法令に適合していない
<ul style="list-style-type: none"> ・特定天井、防火区画不備、避難出口幅不足、など

これまでの修繕概要は、
本編P11をご覧ください

2. 豊岡市立文化会館の現状

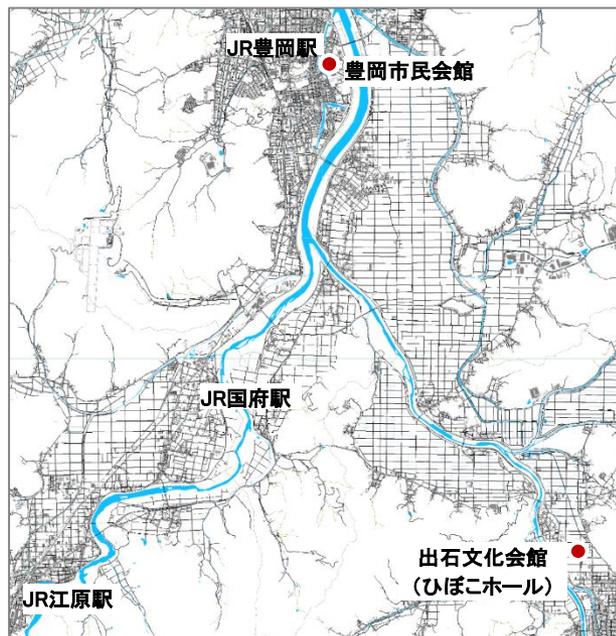
本編 P11～12

1) 施設の現状

②ひぼこホール

- JR江原駅から8.4kmほどの出石市街地からはやや離れた場所に位置
- 平成6年の開館以来、出石および周辺地域住民の文化活動の拠点として親しまれてきた
- 特徴的なデザインの建物で、490席の大ホールと大ホールの舞台袖に続く小ホール、別棟の多目的ホール等により構成されている

【位置図】



【施設概要】

場 所	豊岡市出石町水上318	施設機能	大ホール	490席
用途地域	平成6(1994)年		小ホール	126.8m ²
建設年	なし(都市計画区域外)		ギャラリー	512.6m ²
敷地面積	18,133m ²		楽屋1	14.8m ²
建築面積	2,094m ²		楽屋2	27.2m ²
延床面積	2,661m ²		楽屋3	35.5m ²
構造階数	RC造、地上4階地下1階		多目的ホール	403.5m ²
ホール形式	プロセニアム形式		多目的室	15.6m ²
舞 台	W12×D10×H7(m)			
管理運営	直営			
駐 車 場	普通車217台 大型8台			

2. 豊岡市立文化会館の現状

1) 施設の現状

②ひぼこホール

- ・老朽度調査（H29年）にて、建物自体の大規模改修が必要なこと、多くの設備・機器類が更新・交換時期を迎えていることがわかった。また、機能回復し、今後20年間維持するためには、当初の建設費に近い約16.4億円が必要なことも判明した
- ・「公共施設再編計画（H28年）」では、使用不能と判断した段階で廃止を検討するとしており、建物の用途上、部分的な改修、度々の全館休館は困難であることから、平成30年12月末をもって施設を廃止した

【ひぼこホールの課題】

建物の経年劣化
<ul style="list-style-type: none"> ・屋根の落下、剥落の危険性大。漏水箇所あり ・外壁等の劣化が進行し、剥落の危険性あり
一般設備の劣化
<ul style="list-style-type: none"> ・受変電設備、非常用電源設備が更新時期 ・屋外庭園灯が破損 ・機械室が台風等で水没しやすく、劣化を防ぐため機器の移設が妥当
舞台特殊設備の劣化
<ul style="list-style-type: none"> ・舞台機構設備（ワイヤー、滑車、バトン金具等）が交換時期 ・舞台照明・音響設備の機器類が生産終了のため部品交換不能でトラブルに対応できない（全面的な入れ替えが必要）
現行法令に適合していない
<ul style="list-style-type: none"> ・特定天井に該当 ・バリアフリー環境不備

2. 豊岡市立文化会館の現状

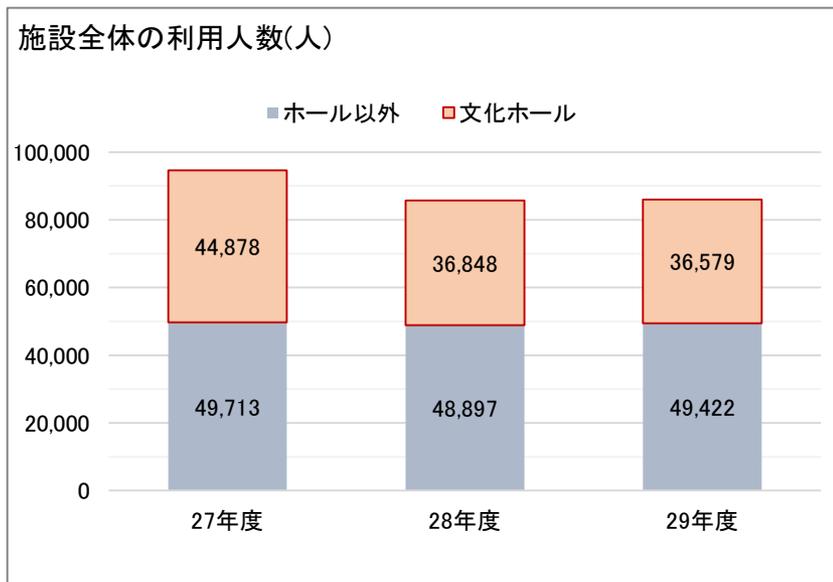
本編 P13～15

2) 利用状況

① 市民会館

- 直近3年の利用人数は減少傾向（H27年度 94,591人、H29年度 86,001人）
- 大ホールの利用人数の減少が原因と推察される（H27年度 44,878人、H28年度 36,848人、H29年度の36,579人）
- その他の諸室については、49,000人前後とほぼ横ばいで推移

【利用人数】



	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
文化ホール	44,878	36,848	36,579	39,435
リハーサル室	5,038	3,501	3,103	3,881
楽屋	6	2	186	65
大会議室	15,472	15,446	15,041	15,320
中会議室	3,798	3,786	4,087	3,890
第1小会議室	1,546	1,160	1,169	1,292
第2小会議室	1,999	1,772	1,873	1,881
講座室	3,903	3,865	3,360	3,709
青少年婦人室	3,186	3,474	2,842	3,167
和室	834	674	407	638
ギャラリー1	5,102	6,233	6,460	5,932
ギャラリー2	5,080	5,868	6,267	5,738
談話室	1,096	1,032	1,471	1,200
多目的室	2,653	2,084	3,156	2,631
ホール以外 計	49,713	48,897	49,422	49,344
合計	94,591	85,745	86,001	88,779

2. 豊岡市立文化会館の現状

本編 P13～15

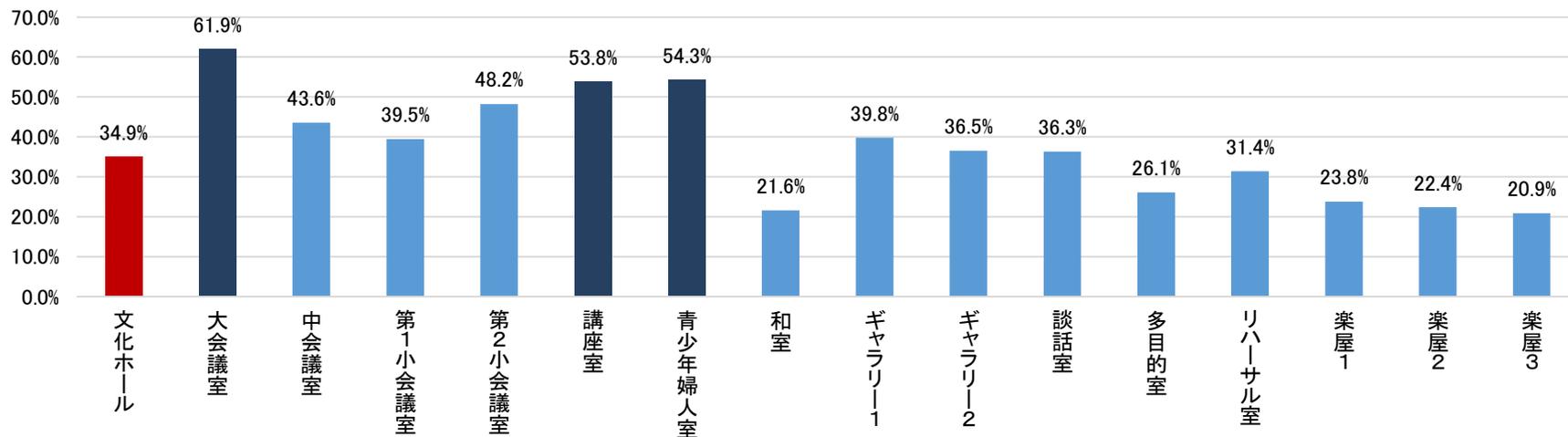
2) 利用状況

① 市民会館

- ・稼働率は、文化ホール 34.9%と決して高いとは言えない数値である
- ・大会議室や講座室、青少年婦人室の大中規模の諸室については、50%以上

【利用日数及び稼働率(日)】

施設別の稼働率(日数)(平成27年度～平成29年度平均)



	使用可能日数	文化ホール	大会議室	中会議室	第1小会議室	第2小会議室	講座室	青少年婦人室	和室	ギャラリー1	ギャラリー2	談話室	多目的室	リハーサル室	楽屋1	楽屋2	楽屋3
平成27年度	309	92	185	124	113	154	167	177	62	121	113	97	60	94	68	62	62
平成28年度	308	114	197	135	130	149	171	164	66	123	107	107	70	98	76	74	68
平成29年度	308	117	191	144	122	143	160	161	72	124	118	132	111	98	76	71	63
合計	925	323	573	403	365	446	498	502	200	368	338	336	241	290	220	207	193

2. 豊岡市立文化会館の現状

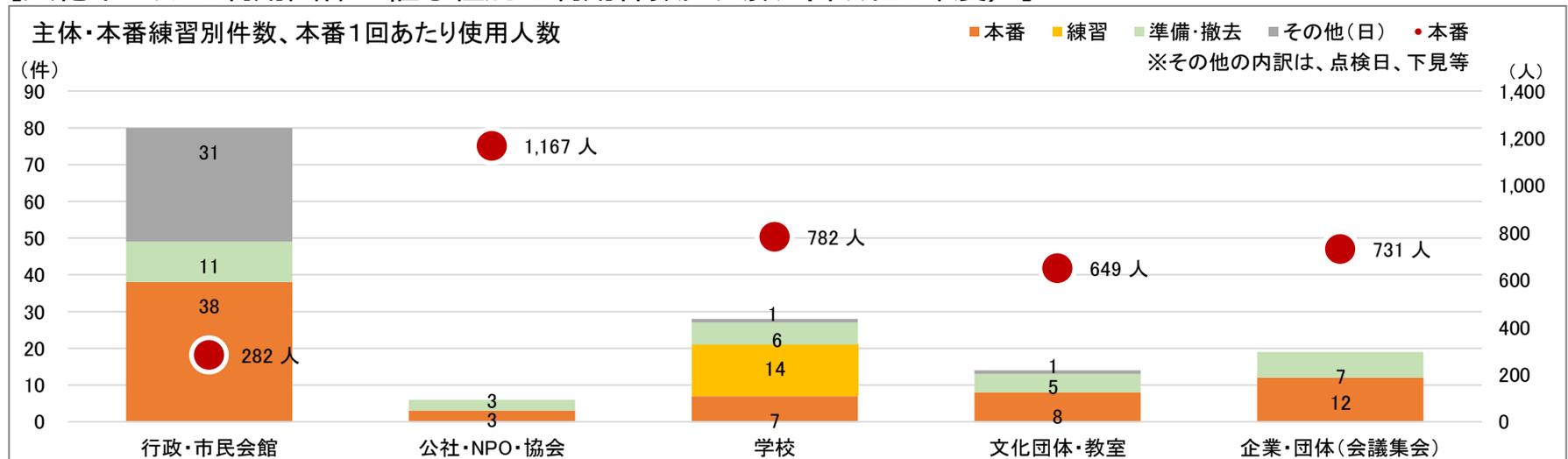
本編 P13~15

2) 利用状況

① 市民会館

- 団体種別で利用件数が最も多いのは、「行政・市民会館」による利用
- 本番数に対して練習、準備・撤去日の日数は約半数
- 本番1回あたりの利用人数は、行政・市民会館の利用を除くと平均約760人

【文化ホールの利用団体・催し種別の利用件数/人数（平成29年度）】



	件数(=日数)					人数				人数(1回あたり)			
	本番	練習	準備撤去	その他	計	本番	練習	準備撤去	その他	本番	練習	準備撤去	その他
行政・市民会館	38	0	11	31	80	10,710	0	1,045	128	282	0	95	4
公社・NPO・協会	3	0	3	0	6	3,500	0	80	0	1,167	0	27	0
学校	7	14	6	1	28	5,473	696	360	18	782	50	60	18
文化団体・教室	8	0	5	1	14	5,190	0	349	120	649	0	70	120
企業・団体(会議集会)	12	0	7	0	19	8,768	0	142	0	731	0	20	0
計	68	14	32	33	147	33,641	696	1,976	266	495	0	62	0

2. 豊岡市立文化会館の現状

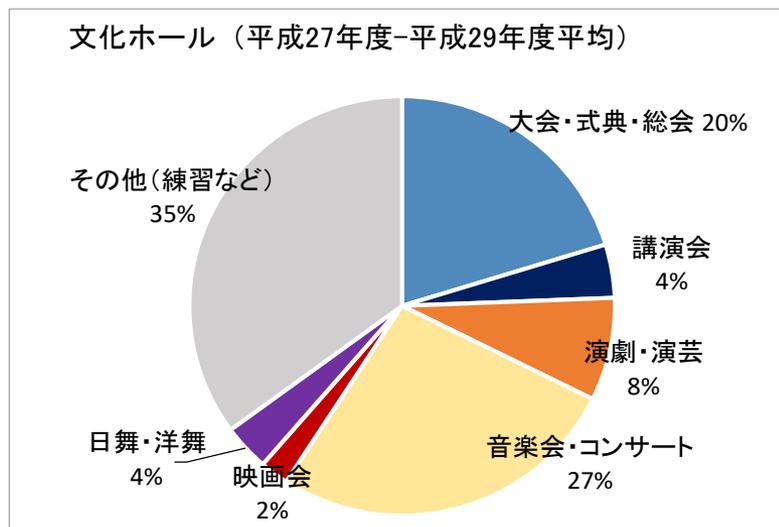
本編 P13~15

2) 利用状況

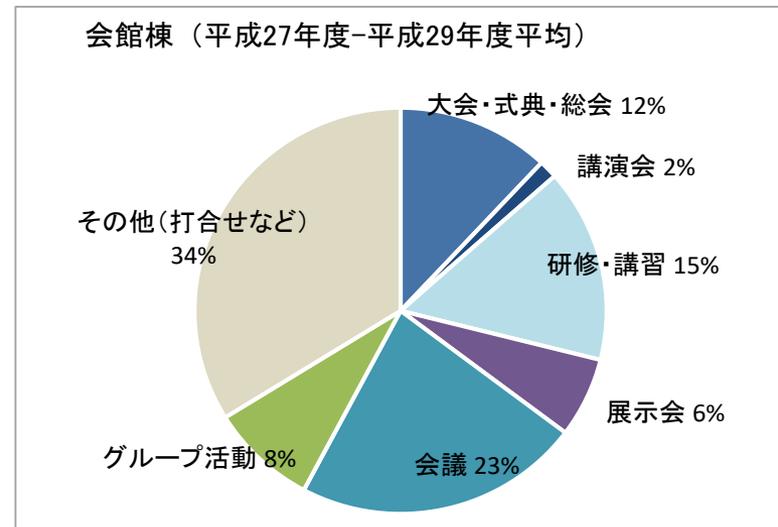
①市民会館

- 利用ジャンルは、音楽や演劇、ダンス等(公演・発表会)が4割を占める

【ジャンル別利用状況】



	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平均
大会・式典・総会	27	25	22	25
講演会	7	5	3	5
演劇・演芸	14	7	8	10
音楽会・コンサート	21	42	35	33
映画会	6	0	2	3
日舞・洋舞	1	4	8	4
その他(練習など)	24	35	69	43
	100	118	147	123



	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平均
大会・式典・総会	188	212	195	198
講演会	27	28	17	24
研修・講習	275	235	254	255
展示会	119	98	97	105
会議	373	380	362	372
グループ活動	248	91	78	139
その他(打合せなど)	365	577	732	558
合計	1,595	1,621	1,735	1,651

2. 豊岡市立文化会館の現状

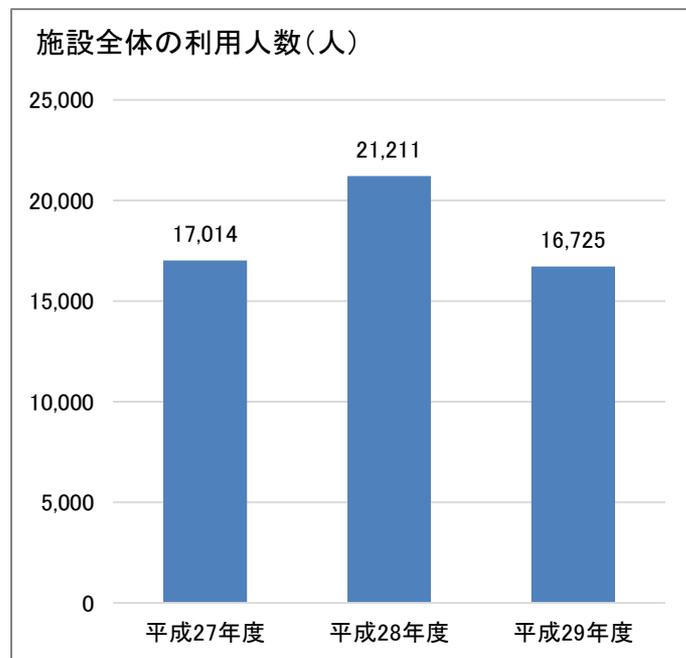
本編 P16~17

2) 利用状況

②ひぼこホール

- 直近3年の利用人数は、平成27年度(17,014人)、平成28年度(21,211人)、平成29年度(16,725人)であった
- 大ホールの利用人数は減少傾向にあったが、小ホールおよびその他の諸室の利用人数は総じて増加傾向

【利用人数】



(人)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
大ホール	13,645	12,109	8,806	11,520
小ホール	2,611	3,675	3,074	3,120
ギャラリー	312	931	1,181	808
楽屋 1	0	161	137	99
楽屋 2	0	396	447	281
楽屋 3	0	461	517	326
多目的ホール	414	3,313	2,445	2,057
多目的室	32	165	118	105
合計	17,014	21,211	16,725	18,317

2. 豊岡市立文化会館の現状

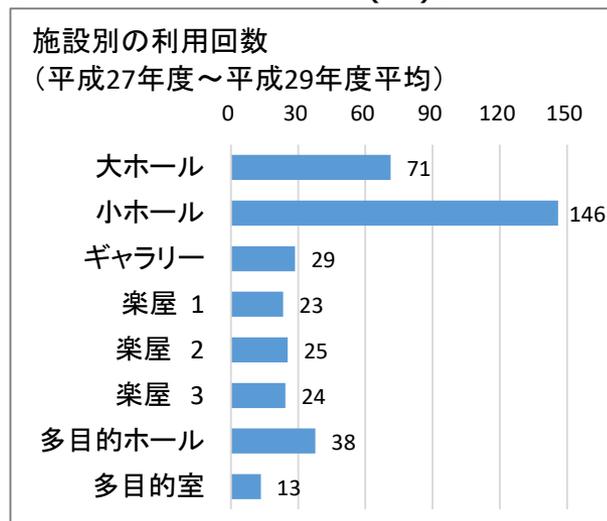
本編 P16～17

2) 利用状況

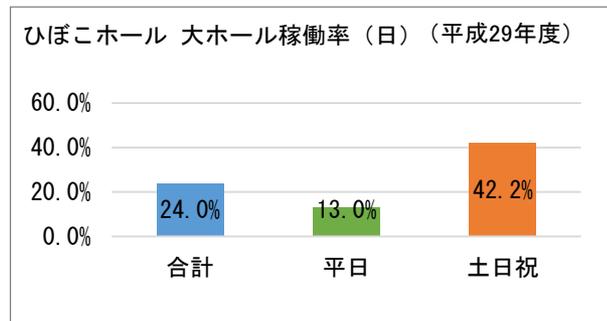
②ひぼこホール

- 利用回数を見ると、小ホールの利用回数が最も多く、大ホールの利用回数は小ホールの半分程度で、稼働率は24%

【利用日数及び稼働率(日)】



(日数)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
大ホール	77	63	74	71
小ホール	131	153	154	146
ギャラリー	24	32	30	29
楽屋 1	0	34	36	23
楽屋 2	0	38	38	25
楽屋 3	0	34	39	24
多目的ホール	7	55	51	38
多目的室	5	20	15	13
合計	244	429	437	370



日数稼働率	合計	平日	土日祝
貸出可能日数	308	192	116
利用日数	74	25	49
稼働率(日)	24.0%	13.0%	42.2%

2. 豊岡市立文化会館の現状

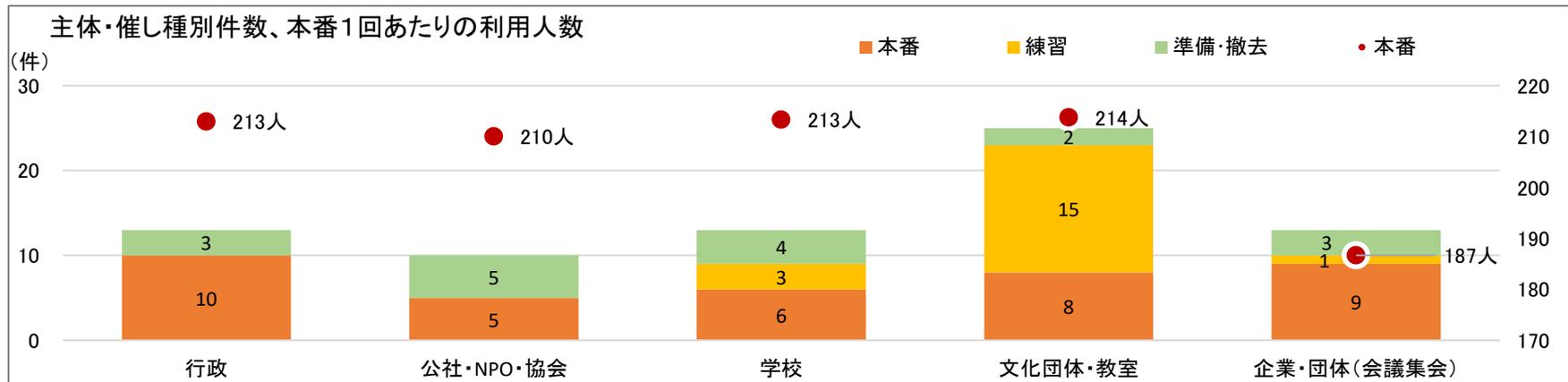
本編 P16~17

2) 利用状況

②ひぼこホール

- 団体種別で利用件数が最も多いのは「文化団体・教室」
- 本番数に対して練習、準備・撤去日の日数は半数以上
- 本番 1 回あたりの利用人数は、平均して約200人

【大ホールの利用団体・催し種別の利用件数／人数（平成29年度）】



	件数(日)				人数(人)			人数_1回あたり(人)		
	本番	練習	準備撤去	計	本番	練習	準備撤去	本番	練習	準備撤去
行政	10	0	3	13	2,130	0	167	213	0	56
公社・NPO・協会	5	0	5	10	1,050	0	65	210	0	13
学校	6	3	4	13	1,280	100	81	213	33	20
文化団体・教室	8	15	2	25	1,710	478	12	214	32	6
企業・団体(会議集会)	9	1	3	13	1,680	25	28	187	25	9
計	38	19	17	74	7,850	603	353	207	32	21

2. 豊岡市立文化会館の現状

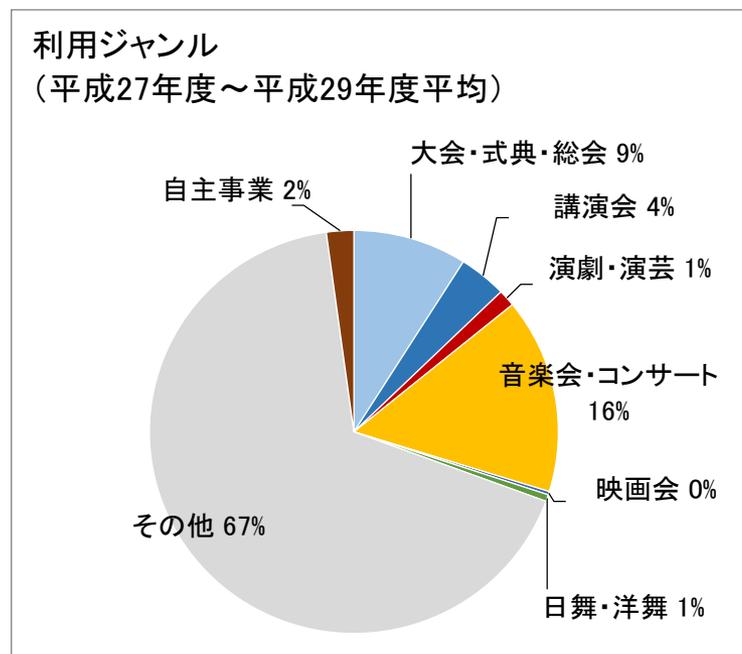
本編 P16～17

2) 利用状況

②ひぼこホール

- ・利用ジャンルは、合唱やバンドなどの練習を含む「その他」が約7割を占める

【ジャンル別利用状況】



(日数)	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平均	
大会・式典・総会	10	49	38	32	8.7%
講演会	2	10	30	14	3.8%
演劇・演芸	1	9	6	5	1.4%
音楽会・コンサート	21	65	88	58	15.7%
映画会	1	2	0	1	0.3%
日舞・洋舞	1	0	6	2	0.6%
その他	206	289	251	249	67.2%
自主事業	2	5	18	8	2.3%
合計	244	429	437	370	100%

3. 豊岡市の文化環境

本編 P18~20

1) 豊岡市内および周辺における文化施設等

① 市内文化施設およびコミュニティセンターの設置状況

- 豊岡市内には、竹野地域を除く各地域にホール機能を有する文化施設が立地
- 身近なコミュニケーションの場として、地区コミュニティセンターが広く分布

【市内類似施設の概要】

施設分類	豊岡市民プラザ	城崎国際アートセンター	日高文化体育館	出石永楽館
場所	大手町4-5	城崎町湯島1062	日高町祢布954-6	出石町柳17-2
建築年	平成10(1998)年	昭和58(1983)年	昭和62(1987)年	平成20(2008)年 (復原工事)
ホール規模	294席	500席	780席	368席
ホール形式	平土間形式(可動席)	平土間形式(可動席)	平土間形式(可動席)	芝居小屋
舞台(m)	W11×D7×H4	W18.5×D12.0×H7	W20×D10×H6	W10.9
施設機能	ほっとステージ 楽屋(2室) 市民活動室A~D 練習室A~C リハーサル室 ふれあい広場 子育て学習室A	ホール(可動席) 楽屋 スタジオ1~6 レジデンス キッチン カフェダイニング	大ホール(可動席) 小ホール ミーティングルーム 会議室 トレーニング室	客席、 衣裳部屋 道具方部屋 カヅラ部屋 化粧部屋 湯殿 附属棟控室A

【位置図】



施設分類	出石市民ホール	但東市民センター	じばさんTAJIMA
場所	出石町内町1	但東町出合150	大磯町1-79
建設年	平成5(1993)年	平成6(1994)年	平成元(1989)年
ホール規模	106.9㎡	248席	322.6㎡
ホール形式	平土間形式	平土間形式(可動席)	平土間形式
舞台(m)	—	W12×D7×H4.6	W9.2×D4.5×H4.0
施設機能	市民ホール	ホール 楽屋	多目的ホール 多目的小ホール 第1~3交流センター デザイン開発研修室 コンピューター室 経営研修室

【豊岡市内のコミュニティセンター】

豊岡地域	城崎地域	竹野地域	日高地域	出石地域	但東地域
豊岡地区	城崎地区	竹野地区	国府地区	弘道地区	相場氏地区
神美地区		中竹野地区	八代地区	福住地区	高橋地区
八条地区		竹野南地区	日高地区	寺坂地区	資母地区
三江地区			三方地区	菅谷地区	
五荘地区			清滝地区	小坂地区	
新田地区			西気地区	小野地区	
中筋地区					
奈佐地区					
港地区					
田鶴野地区					

※赤字は、文化ホール、多目的ホールがある施設

3. 豊岡市の文化環境

1) 豊岡市内および周辺における文化施設等

② 周辺市町における文化施設の設置状況

- 1,000席を超える施設は京都府の福知山厚生会館のみ
- 和田山ジュピターホールを除けば、ほとんどが開館から30年が経過

【市内類似施設の概要】

施設分類	養父市文化会館 (仮称)(計画中)	養父市立 関宮公民館	養父市立 ビバホール	朝来市文化会館 (和田山ジュピター ホール)	香美町立香住区 中央公民館
場所	養父市八鹿町 八鹿538-1	兵庫県養父市 関宮637	兵庫県養父市 広谷250	朝来市和田山町 玉置877-1	美方郡香美町香住 区香住114-1
建築年	平成33(2021)年 (予定)	平成元(1989)年	平成2(1990)年	平成4(1992)年	昭和60(1985)年
ホール形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	シューボックス型
客席数	650席	362席	336席	800席	712席
舞台(m)	W 16.2×D 13	W10×D 6×H 5	W 11×D 9×H 8	W 19×D 10×H 10	W 12×D 10×H 6
施設機能	<併設施設> 図書館、公民館、 公園	<付属施設> 会議室:1、和室:1 展示室:1、楽屋:1 視聴覚室:1、 研修室:1、図書室:1	<付属施設> 控室2室 <併設施設> 公民館、福祉セン ター、就業改善セン ター	<付属施設> 研修1、応接1、 浴室2、 小ホール200席	<付属施設> 楽屋:2、視聴覚室:1 研修室:3、図書室:1 その他室数:1

【位置図】



施設分類	新温泉町文化体育 館夢ホール	京都府 丹後文化会館	福知山市厚生会館	福知山市民ホール
場所	美方郡新温泉町 湯990-8	京都府京丹後市 峰山町杉谷1030	京都府 福知山市 字中ノ(西中ノ町) 170-5	京都府 福知山市 字内記100
建設年	昭和63(1988)年	昭和55(1980)年	昭和37(1962)年	昭和47(1972)年
ホール形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	—
客席数	600席	858席	1,002席	369席
舞台(m)	W 13×D 7.9×H 5.8	W 16×D 13×H 8	W 19×D 10×H 6	W 7
施設機能	<併設施設> 新温泉町総合支 所(新温泉町民セ ンター)	<付属施設> リハーサル室:3、楽 屋:4、食堂・喫茶:1 オケピット:1	<付属施設> 会議室:3、和室:1、 楽屋:3	<付属施設> 会議室:6、和室:1 その他室数:5

3. 豊岡市の文化環境

2) 豊岡市内における文化活動・関連事業等の現状

- 豊岡市は、地域の特色を活かした文化芸術活動などさまざまな事業等を行っており、これらの先進的な取り組みにより、平成28年度文化庁長官表彰を受賞している

【豊岡市の特徴的な文化芸術事業】

- 地方創生の拠点「城崎国際アートセンター」
- 演劇によるコミュニケーション教育の推進
- 芝居小屋「出石永楽館」の再生を核とした出石地域の活性化
- NPO法人プラッツによる中間支援と施設運営
- 「豊岡アートシーズン」による合併後のアイデンティティ形成

- 市内には、多数の市民が参加している文化団体の多種多様な文化芸術活動や、文化施設を活用した市民主体の創作活動が展開されている
- しかし、実施したヒアリング等によると、文化団体の活動の多くは旧地域ごとに行われる傾向が強く、他地域の文化団体との連携や全市域での一体的な活動は極めて少なく、多くの団体において、会員の高齢化や会員数の減少が進行している

【主な文化団体・文化振興を目的とするNPO】

- 豊岡市文化協会（構成団体：豊岡文化協会、城崎文化協会、竹野文化協会、日高文化協会、出石文化協会、但東文化協会）
- NPO法人プラッツ
- NPO法人コミュニティ日高

- 兵庫県により、JR豊岡駅から約600mの位置に観光と芸術文化分野で事業創造を展開する専門職人材を育成する4年生大学の創設が2021年開学を目指し進められている

4. 市民意見・関係団体意見の集約

1) 市民ワークショップ

第一回	2018年12月9日	参加者18名	テーマ「豊岡のまちじまん・文化じまん」
第二回	2018年12月20日	参加者18名	テーマ「年間スケジュールを考えよう」
第三回	2019年1月26日	参加者17名	テーマ「必要な機能や施設を考えよう」

2) 市民アンケート

実施時期	2018年11月29日
対象	豊岡市民3,000人
回収数	992 (回収率33.1%)

属性別の回答者数と割合(無回答者分は未記載)

性別	人数	割合	年齢	人数	割合	居住地	人数	割合
男性	412	42.4%	10代	24	2.4%	豊岡	512	51.6%
女性	554	55.9%	20代	42	4.2%	城崎	38	3.8%
			30代	81	8.2%	竹野	50	5.0%
			40代	137	13.8%	日高	197	19.9%
			50代	170	17.1%	出石	118	11.9%
			60代	235	23.7%	但東	55	5.5%
			70代	190	19.2%			
			80代	100	10.1%			

3) 関係団体等ヒアリング

実施時期	2018年11月9日、10日 計4回
実施場所	豊岡稽古堂交流室、市役所庁議室
参加団体	地域・教育福祉関係団体、文化団体、楽器店、商工観光団体・事業者、劇場施設管理運営団体など、計22団体

4. 市民意見・関係団体意見の集約

○市民の要望、意見等

(市民ワークショップ、市民アンケート、関係団体ヒアリングより)

大ホール

- 高質で様々なジャンルの音楽/舞台芸術鑑賞
- 音が良い、見やすく使いやすい舞台
- 舞台から展示まで多用途
- 人数に合わせて使える(大きすぎると使い難い)

中小ホール

- 催しから発表まで自由に使える
- 平土間の可動式 多目的ホール

諸室

- 舞台と同サイズのリハーサル室
- 防音練習室、鏡、2段のバー付き
- 大中小規模の楽屋
- 展示室、ギャラリー、工房
- フリースペース、図書・情報・飲食スペース
- 市民活動スペース

その他

- いつも賑わい、誰もが気軽に使える
- バリアフリー、十分な駐車場、アクセス
- 防災避難機能
- 6地域の交通網の良い立地、まちなか
- 但馬・豊岡市の核となる施設
- 施設間連携、地域間連携、世代間連携

5. 文化会館の再整備にあたっての留意事項

1) 文化会館をはじめとする市内文化施設の役割

- 市民会館は市町合併後も、市内最大のホールとして広く市民に認識され利用されており、新たな施設においても同様の位置付け、役割が求められている
- 音楽や演劇等さまざまな舞台芸術鑑賞、市民文化団体や学校等の発表会や式典等の場として、但馬の中核施設に相応しい役割を果たすことが期待されている
- ひぼこホールの機能は新文化会館に統合されるが、合併以前に各地域で整備された既存文化施設も老朽化が進みつつあることから、新文化会館の整備とあわせて、各施設の役割や機能分担等のあり方や考え方についても整理が必要

2) 新しい文化会館について

- 豊岡市が推進する「文化芸術による『小さな世界都市』の実現」に資する施設
- 市民からは、新文化会館が、市民の一体感の醸成やまちづくり・地域の活性化などにつながる施設となることが望まれてる
- 各世代、地域のライフスタイルの違いにより、文化芸術環境や文化活動への取り組み状況はさまざま。新文化会館の整備にあわせて、これらの対応も必要
- 人口減少や少子高齢化が進展する中での適切な規模や形式の検討も必要
- 以上に加えて、文化芸術によるまちづくりに取り組み、すでにいくつかの文化芸術事業を展開している豊岡市の文化芸術拠点として相応しい姿が求められる

6. 市内文化施設の再整理と新文化会館の方向性

豊岡市の現状、文化芸術施設・活動状況

- 豊岡市は個性豊かな6地域により構成される（2005年市町合併）
- 豊岡地域に主要な都市機能や文化施設が集中する一方、各地区に合併前からの文化施設が残り利用されている
 - ・豊岡地域に市民会館や市民プラザ等の文化施設が立地し、市全域から広く利用されている
 - ・出石永楽館、城崎国際アートセンターは市域を超えた知名度や海外と直接の繋がりを有する
 - ・小中学校教育における演劇の導入や全市的なアートイベントの展開等、多様な試みがなされている
 - ・全市的な取り組みの一方、市民の文化活動は従来の行政区域内にとどまることも多い

国の文化政策の動向

市の上位計画

文化芸術に関する社会的潮流

市民の要望、意見等

- ・市民ワークショップ
- ・市民アンケート
- ・関係団体等ヒアリング

市内文化施設の再整理

市民会館	豊岡市の芸術鑑賞・文化芸術活動拠点。市の文化の殿堂
ひぼこホール	市民会館と統合、新文化会館として整備
城崎国際アートセンター	滞在型舞台芸術創造発信拠点（世界のアーティスト・舞台芸術に触れる）
豊岡市民プラザ	市民活動支援・子育て支援・地域文化活動創造育成拠点
出石永楽館	県指定文化財の近畿最古の芝居小屋（文化財として保存・活用）
出石市民ホール	出石地域を中心とした文化団体等の日常活動拠点（練習主体）
日高文化体育館	日高地域を中心とした市民の文化スポーツ活動拠点（体育館メイン）
但東市民センター	但東地域を中心とした文化団体の日常活動拠点（集会場等）

新文化会館の方向性（キーワード）

賑わい 文化芸術 交流 創造 拠点 繋ぐ

豊岡市の文化施設の核となる 多機能化で重ね使いできる“新たな施設”の整備

貸館だけでない積極的な公演イベント 市民参加の管理運営

第2章 豊岡市新文化会館の基本的な考え方

1. 豊岡市新文化会館の基本理念

1) 基本理念

- 豊岡市は、文化芸術によるまちづくりで「**小さな世界都市**」を目指す
- 新たな文化会館は、市民やアーティスト等の安定的で継続的な文化芸術創造活動を支える**豊岡市の中核施設**
- 優れた文化芸術の振興普及や創造はもとより、**文化芸術を通じて人々に安らぎや活力を与え、創造力や表現力を引き出し、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供する**
- **地域や世代を超えた交流**活動を生み出し、豊岡市の魅力を内外に発信しながら、**賑わいのあるまちづくりに繋げていく**

基本理念と5つのキーワード

人・地域・世代 を繋ぐ 文化芸術交流拠点



1. 豊岡市新文化会館の基本理念

本編 P32～33

2) 基本的な役割

①市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供する

- 子どもから大人まで身近に優れた文化芸術に親しみ楽しむ機会を提供し、市民が豊かさを実感できる場とする
- 誰もが安全快適に鑑賞できる環境を整えるとともに、多彩で良質な公演ができるような舞台環境づくりを行う
- 来館者に対してだけでなく、文化芸術を地域に直接届けるなど、さまざまな方法で多くの市民が文化芸術に触れることのできる機会づくりを目指す

②多様なレベルの文化芸術活動・創造拠点となる

- はじめての人から更なる高みを目指して本格的に取り組む活動、さらにはプロとしてのステップアップを図る若手アーティストの活動まで、幅広く支援する
- 日常的な練習・創作活動の場であると同時に、それらの成果を発表・披露する“ハレ”の場とすることで、文化芸術の創造と発展を支援する
- 作品づくりや施設運営・事業等に市民が主体的に参加・参画する機会を提供するなど、市民の文化芸術活動の底上げを図る
- 城崎国際アートセンターや専門職大学等で生まれた作品を国内外に発信する前に最初に発表する場とすることや芸術監督の登用なども検討する

1. 豊岡市新文化会館の基本理念

2) 基本的な役割

③地域文化を次世代に引き継ぐ

- 文化の中核施設として、市域を構成する各地域に古くから受け継がれてきた伝統芸能など、豊かな自然や歴史とともに地域に根ざす各地域固有の文化を再発見し、市域全体に広げることで、次世代に引き継ぐ
- さらには、新たな価値を付加することで、市域全体の文化の持続的な発展を目指す

④交流を生み出す、市民の居場所となる

- だれでも気軽に立ち寄り、文化芸術に触れながら快適に過ごすことができる環境づくりに取り組む
- 世代や地域、文化芸術ジャンル等を超えて、新たな発見や出会いが生まれる場とする

1. 豊岡市新文化会館の基本理念

2) 基本的な役割

⑤文化芸術による「小さな世界都市づくり」を発信する

- 市民のサークルからプロのアーティストまで、様々な文化団体や活動の紹介、各種イベント・企画の広報など、幅広い文化芸術の情報を発信する
- 様々な機会や交流を通じてにぎわいを創出し、豊岡ならではの魅力を発信し続けることで、内外から人を呼び込み、まちに活気をもたらし、市民の誇りが醸成されるサイクルづくりを目指す

⑥他の文化芸術施設と有機的に連携し、文化芸術の力を最大化する

- 豊岡市においては、出石永楽館、城崎国際アートセンター、豊岡市民プラザ、専門職大学などの文化芸術関連施設の設置や学校教育における演劇の活用など、全国に先駆けた先進的な取り組みが行われている
- 新しい文化会館は、市民会館とひぼこホールの統合再整備を図るものであり、オール豊岡の文化芸術交流拠点である
- これらの先端的施設や活動、教育福祉をはじめ観光やまちづくりなどの関連分野との協力を図りながら、豊岡市の総合的な文化芸術環境の充実・強化に貢献する

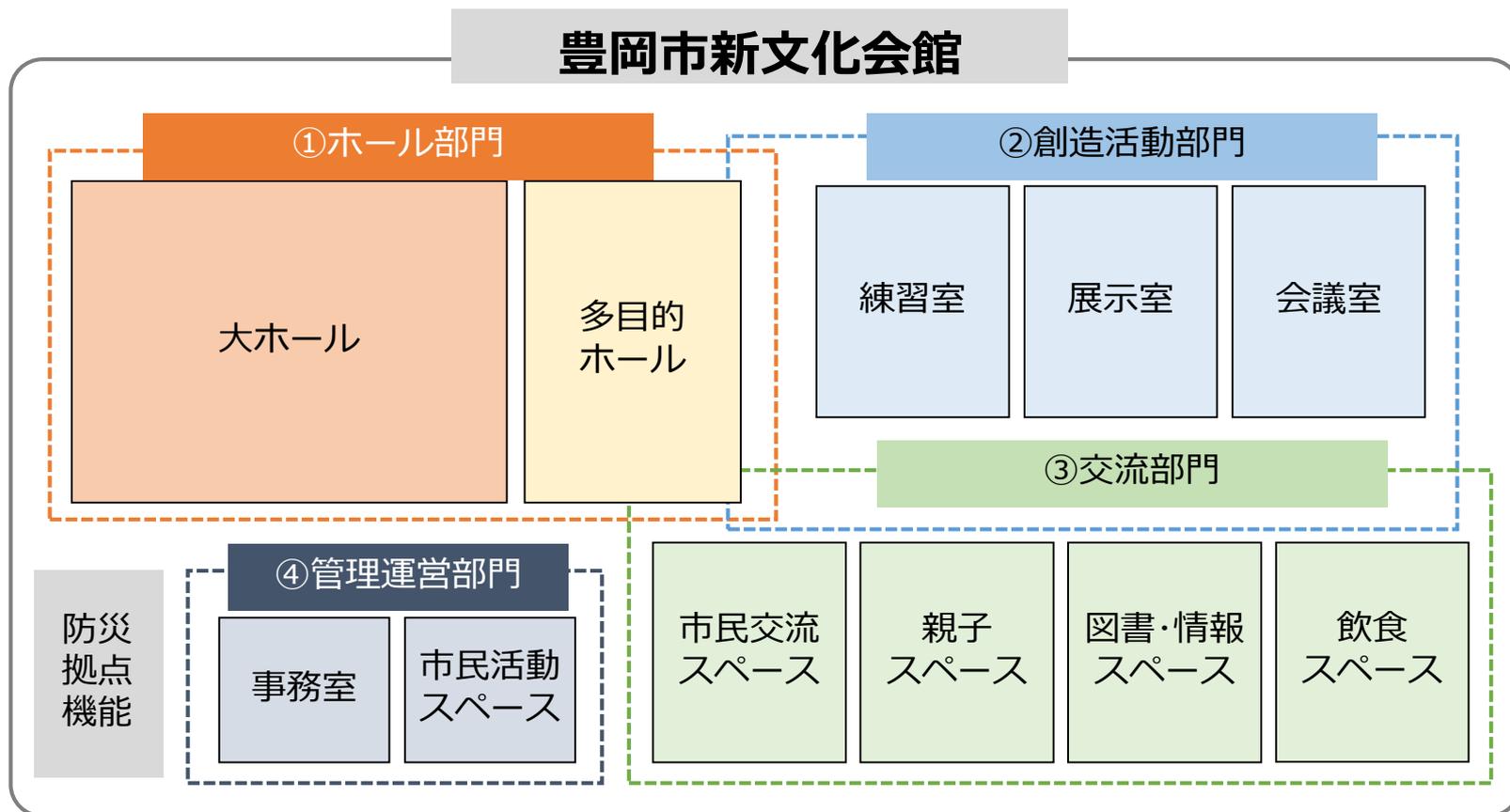
第3章 豊岡市新文化会館に必要な機能と考え方

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

本編 P34～36

1) 施設機能及び構成

- 新文化会館の基本的な役割を果たすために必要な機能を集約・整理すると、以下のようなになった



1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

1) 施設機能及び構成

①ホール部門

<大ホール>

- 大ホールは音楽利用性能を向上させる技術を取り入れた多機能ホールとし、音楽をベースに様々な舞台芸術に対応
- 文化団体や学校利用・成人式等の式典利用を想定、収容人数は600人～1000人程度
- 客席の構造は複層化し、利用人数が少ない時は1階のみで利用できるようなシステムの導入を検討する
- また、客席を移動観覧席として、多用途に対応する平土間ホールとして利用可能な形態もあわせて検討する
- 座席自体もゆとりのある客席とするとともに、障害者や高齢者にも配慮する
- 十分な舞台の大きさや楽屋数、搬入のしやすさなど、バックヤードの充実を図る

【大ホール関連諸室】

部門	分野	具体的に想定される諸室
大ホール部門	客席関係	客席、親子室など
	ホワイエ関係	ホワイエ、主催者事務室、客用便所など
	舞台及び舞台裏	舞台、備品庫、搬入ヤードなど
	技術諸室	調光操作室、音響調整室など
	楽屋関係	楽屋、スタッフ控室、楽屋用便所、備品庫など

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

1) 施設機能及び構成

①ホール部門

<多目的ホール>

- 公演のリハーサルや市民の日常的な練習のほか、小規模な発表会や展示会、大人数での会議等、さまざまな用途に利用可能な平土間形式のホールとする
- 収容人数は200～300人程度とし、大ホールの舞台と同程度の規模とする
- 大ホール同様に、バックヤードの充実を図る
- 多目的ホールを本番利用として使用する時の楽屋については、大ホール附帯の楽屋や、その他の諸室を楽屋として転用することで対応できるよう、動線や諸室配置に配慮する
- なお、大ホールと多目的ホールの2つのホールを設置することにより、市内の既存文化施設のホール機能をカバーすることが可能となると考える。従って、新たに他の施設での小ホール機能の確保は行わない

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

1) 施設機能及び構成

②創造活動部門

- 市民の日常的な活動を支援する部門として、創造活動部門を設ける
- 日常的な活動・練習・発表の場として、楽器演奏やダンス等、音の出る活動にも対応した防音・遮音性能を備えた練習室、その他会議室等の設置を検討する

③交流部門

- 交流部門は、施設全体の賑わいを創出し、催し物がなくても誰もが気軽に施設へ訪れることができるような部門として計画する
- 市民の憩いの場となるような市民交流スペース、子どもが遊べるスペースや子育てに関する情報コーナーを設けた親子ひろば、文化活動に関連する図書や県内外の文化情報を集めた図書スペースの他、カフェ・レストラン等の設置を検討する

④管理運営部門

- 管理運営部門には、施設全体の維持管理、諸室貸出の管理を一体的に行う管理事務室の他、市民活動団体の荷物置き場や活動拠点となるような市民活動スペースの設置を検討する

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

本編 P35～36

2) 施設規模

- 施設全体の規模は、各部門の面積に廊下や階段、便所の共用部分と機械室を加えて、概ね6,000～7,200㎡程度と想定
- 具体的な諸室の規模・数については、基本計画段階で検討するが、諸室や空間はさまざまな機能に対して柔軟な対応ができる「多機能」な設備とし、「重ね使い」することで、規模やランニングコストを抑えたコンパクトな計画を目指す
- 例えば多目的ホールを会議室としたり、利用がないときには大ホールの楽屋を練習室としたりするよう検討する

【施設規模】

			想定面積	備考
機能部分	ホール部門	大ホール	3,000～3,800㎡	客席600～1,000席(2層構成) 楽屋、ホワイエ等含む
		多目的ホール	300㎡	平土間 200～300人収容倉庫含む
	創造活動部門		300㎡	練習室、会議室、展示室等
	交流部門		200㎡	市民交流スペース、親子ひろば、 図書スペース、カフェ・レストラン、ロビー
	管理運営部門		100㎡	事務室、市民活動スペース
	小計		3,900～4,700㎡	
共用部分			1,300～1,600㎡	廊下、共用便所、階段等 小計(機能部分面積)の35%
機械室			800～900㎡	延床面積の15%
合計(延床面積)			6,000～7,200㎡	

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

本編 P36

3) 駐車場

- 市民からは、十分な駐車場の確保を望む声が多く、法で定められた附置義務駐車台数にとどまらず、敷地の立地や広さにあわせて最大限の駐車場台数を確保することを目指す
- 建設費用との兼ね合いではあるが、立体駐車場の整備や敷地周辺における公共施設駐車場の供用、時間貸し駐車場の活用等についても検討する

4) 施設配置

- 施設及び諸室の配置に関しては、敷地周辺環境に配慮する
- 建物内においては、観客、出演者、主催者、搬出入等の動線を考慮する
- 特に敷地周辺が住居系市街地の場合は、ホール建物による日影、搬入大型車両やバス、来場者の自家用車や人の集中による騒音や振動等の影響を極力抑えるような配置を検討する

1. 豊岡市新文化会館の施設の概要

本編 P36

5) 施設整備における配慮事項

- ・ 安全性 地震や水害等の自然災害に対する強度、避難所機能
- ・ 利便性、快適性 ユニバーサルデザイン、バリアフリー
- ・ 経済性、効率性 建設費のみでなく、維持管理費の抑制
- ・ 環境共生 ゼロエネルギー、自然エネルギーの活用
- ・ デザイン 地域性、施設コンセプトとの整合 など

2. 豊岡市新文化会館の建設地

- ・現時点において建設地は決定していないが、市の財政状況および整備スケジュール等を勘案して、現有市有財産を活用する方針である
- ・建設地を選定するにあたっては、公共交通機関や道路等のアクセス条件や周辺環境をはじめ、以下に示す様々な観点から検討する

【建設地選定の評価項目①】

評価項目			評価内容
立地	都市計画	用途地域など	劇場用途の建設可否 ・商業地域、近隣商業地域、準工業地域であれば可 ・特別用途地区(文教地区等)の指定がないこと
		その他	景観地区、高度地区等の指定による建築高さ等への影響
	アクセス	来館者	鉄道、バス等公共交通の利用可能路線数および運行頻度 高速道路のインターチェンジからの距離および経路 最寄り駅等からの距離、歩行環境
		搬入車両等	大型車両(11トントラック、バス)のアクセスのしやすさ
	周辺地域	補完機能の状況	飲食施設、商業施設 学校・大学等の教育機関 文化施設などの類似機能施設 時間貸し駐車場
		周辺地域状況	劇場利用者(歩行者、車)の集中、搬入大型車両の通行、劇場からの騒音振動等の影響

2. 豊岡市新文化会館の建設地

本編 P37

【建設地選定の評価項目②】

評価項目		評価内容	
敷地	土地の性格	地盤	支持地盤深さ、液状化の可能性の有無
		地歴	土壌改良の要否
		自然災害危険性	津波、浸水の危険性の有無
		その他	騒音・振動発生源(鉄道、飛行経路)の有無/発生源からの距離
	土地の広さ形状等	必要最低寸法	十分な舞台・客席の確保、諸室配置の可否等
		高低差	入出庫経路等への影響
		駐車場可能台数	必要駐車可能台数の確保の可否
	接道条件	接道面数	入出庫経路の確保
	建物規模、高さ制限	建蔽率 容積率	必要建築面積の確保の可否 延床面積の確保の可否
		斜線制限	道路斜線、隣地斜線、北側隣地斜線、日影規制による高さへの影響
その他	土地所有	民有地の場合、土地取得費、事業手法・期間等に影響	
	政策との整合性	上位関連計画との整合性(都市計画マスタープラン等)	
	新文化会館のコンセプト実現性	新文化会館の目指す役割が実現できるか	

第4章 豊岡市新文化会館の管理運営の考え方

1. 管理運営に関する考え方

1) 管理運営の基本的な考え方

- 新文化会館は、関心のある人だけが訪れる施設ではなく、老若男女、障がいの有無に関わらず、あらゆる人が日常的に集い、文化芸術を通じた交流を生み出し、市民の暮らしをより豊かにしていくことが求められる
- そのためには、単に施設を貸し出すだけでなく、公演等の様々な事業企画の提供、市民の文化活動や参加を推進していくよう、継続的に働きかけていくことが必要
- さらに、市内の公共施設はもちろん、専門職大学、市外の文化施設等も広域的な連携協力を積極的に図ることで求心力を高め、市民はもちろん周辺自治体住民に対する積極的な広報活動を行うことも必要となる
- 上記の内容の詳細については、「管理運営計画」として、施設整備の基本構想、基本計画の考え方を踏まえながら、広く市民の意見を聞き、詳細をまとめて行く

1. 管理運営に関する考え方

2) 組織

①組織体制の考え方

- 基本構想を実現するための運営体制として、各種事業やサービスを積極的に提供していくための部門と人員が必要
- 中でも、専門職大学との連携、専門性を持った人材の確保と適正な配置、市民の主体的な活動や参加を推進・促進していくような人材が、より良い運営を実現するために重要である
- また、社会包摂の観点から、障がい者の雇用の場や活動の支援も検討する

②管理運営主体の考え方

- 現在、公の施設の管理運営をする方法として、「直営」と「指定管理者」がある
今後、ふさわしい管理運営主体のあり方を比較検討する
- 主な管理運営業務については、下表のとおり。いずれの業務においても求められる専門性が異なるため、業務毎に専門性をもった人員を配置する、あるいは異なる主体で個々の業務を分担するなどの方法が考えられる

項目	業務内容
(ア)貸館事業	ホール部門・創造活動部門・共用部の貸出管理
(イ)自主事業	各種事業の企画・制作・実施
(ウ)市民参画・協働	市民参画・協働の相談窓口・調整・促進
(エ)広報・券売	広報・マーケティング、チケット販売管理
(オ)舞台技術管理	舞台機構・照明・音響の機器操作・管理、安全管理
(カ)ビルメンテナンス	施設・設備の維持管理・メンテナンス、清掃、防災管理
(キ)共用スペース管理	交流部門、飲食スペース、情報・図書コーナー等

1. 管理運営に関する考え方

3) 管理運営のシステムを構築

- ・市民の文化活動を促進させていくためには、施設の利用機会を広く提供していく必要がある
- ・施設利用にあたっては、規則に則した運営のシステム構築が必要で、利用者の意見を取り入れながら、文化芸術活動の拠点として、柔軟性をもった内容と運用が求められる

検討項目

・開館時間	・休館日の設定	・利用申請方法
・利用申請時期	・利用区分の設定	・利用の許可方法
・使用料金設定の考え方	・使用料金減免の考え方	・使用料の加算の考え方 等

4) 市民参加・市民協働に関する基本的な考え方

- ・施設利用者の日常的な活動、観客としての公演鑑賞やイベント参加、さらに自主的・主体的な運営に関わるホールサポーターの他、事業パートナーや企画・運営に参画する等、多様な関わり方がある
- ・市民が「わたしたちのホール」と捉えられるよう、開館前からの積極的な市民参加・参画を進めながら、開館後も発展的に関わっていけるよう、環境整備や仕組みづくりを検討する

1. 管理運営に関する考え方

5) 運営する上での収入確保方策の検討

- 豊岡市新文化会館の主な収入源として、施設や設備等の貸出に伴う利用料金収入、自主事業のチケット代・参加費等の収入が想定される
- また、国や民間からの補助金・助成金の積極的な活用による資金獲得の検討
- 「ネーミングライツ」、「冠コンサート」、共催・協賛事業の資金協力、屋内や紙面等での広告スペースの運用など、様々な手法があるが、豊岡市新文化会館に適切な手法を検討していく